

座談会：スマートフォンアプリ「救命サポーター team ASUKA」 の登録者数を増やすために — さらなる機能改善に向けて —



▼アプリダウンロードはこちら



誰もがAEDを使って救える命を救う世の中、それを支えるのが救命サポーター「team ASUKA」です。
ASUKAとは、2011年さいたま市の小学校で駅伝の練習中に心停止となり、亡くなった桐田明日香さん。学校にはAEDがあったのに使われることはありませんでした。
明日香さんが大好きだった家族、友達を救える「明日」へ。彼女が描いた未来を実現するために私たちは救命サポーターを「team ASUKA」と名付けました。

公益財団法人日本AED財団では、2022年9月30日にスマートフォンアプリ「救命サポーター team ASUKA」をリリースしました。2019年より運用開始した“みんなで作るAEDマップ「AED N@VI」”に、救命処置について学べるコンテンツや119番通報ガイド、ガチャやクイズなどのゲーミフィケーション等の機能を追加。日頃からAEDに関わる情報を共有し、いざというときの救命行動を支援するアプリです。
今回は、このアプリの更なる改善に向け、減らせ突然死プロジェクト実行委員の島本・千田をモデレーターに有識者と意見交換を行いました。

座談会メンバー



石見 拓
京都大学大学院
医学研究科予防医療学分野
教授



小畑 友紀雄
大阪大谷大学
薬学部 准教授



成田 倫史
株式会社大広
大広 CXD 本部
統合プロモーション局



平舘 宏美
日本大学習志野高等学校
保健衛生部主任
千葉 PUSH



平野 清
愛知 PUSH



横川 裕大
株式会社 CERCIT
代表取締役 CEO

モデレーター



島本 大也
京都大学大学院
医学研究科予防医療学分野
特定講師



千田 いずみ
明治国際医療大学
保健医療学部
救急救命学科 講師

千田 まず「救命サポーター team ASUKA」が持つ4つのお主な機能について説明します（図1）。

≪機能1≫AED N@VI

アプリのユーザーが街中にあるAED設置情報を登録し共有する機能です。登録台数が多くなればなるほど緊急時のAED検索の精度が上がります。活動に応じて付与されるポイントで、ランキングへ参加したり、キャラクターをゲットしたりといった楽しみも。

≪機能2≫最寄りのAED検索

現場から最も近くにあるAEDまでの経路を示し

てくれます。目の前のAEDがAED N@VIに登録されているかのチェックにも使えます。

≪機能3≫救命コーチングアプリ Liv for ALL

「救命処置を学ぶ」のボタンを押すと出てくるLiv(リブ)は、救命処置をオンラインで学べるコンテンツ。必要なものはスマホとクッションだけ！たった15分で、楽しく学べます。

≪機能4≫119番通報ガイド

実際に119番通報ができるだけでなく、通信指令員に聞かれる内容が示され、現在地の住所が地図とともに表示されます。



図1 「救命サポーター team ASUKA」の主な機能

千田 それではこのアプリがこれまで以上に多くの人に使ってもらえるように、日頃から活用いただいている皆さんの視点で改善点などをざくばらんに会話させてください。

◆アプリに対する率直な印象

千田 まずは率直に、今のアプリに対してどんな感想を持っているかを聞かせてください。

島本 平館先生は AED N@VI のポイントランキング上位者ですね。積極的に使っていてありがとうございます。

平館 従来の AED N@VI アプリ (team ASUKA 以前のアプリ) の時に比べて team ASUKA ではいろいろな機能が盛り込めるようになって、すごく充実したなってというのが率直な感想です。私たちは救命講習等に日常的に関わっているので当たり前だと思うことでも、一般の方からしたら「あれ、救命処置の手順はどうするんだっけ？」とか「あのメッセージムービーをもう一度見てみたいな」とか、そういうことがあると思うんです。そういった意味では、今の team ASUKA の機能は非常に充実していると思います。

千田 小畑先生、ご意見を聞かせてください。



図2 ゲーム画面

AED 設置情報の登録に応じて与えられるポイントを使って、クイズに答えて階級を上げたり、ガチャでキャラクターを集めたりできる仕組みです。階級が上がれば、マスコットキャラクターであるボジョレー君の画像が変わっていくだけでなく、ガチャでレアなキャラクターが出やすくなります。

小畑 よく使うのが AED N@VI に AED を登録する機能です。ポイントを使ったクイズも最初楽しくやっていたんですけど、一番上の階級になるとそれ以上進まないの、それで使うのをやめる人もいますよね。例えば一番上の階級まで行ったら、今度は服装が変わっていくとか、セカンドバージョンみたいなものがあったら面白いのかなと思います（図 2）。

あと、この「119 番通報ガイド」がちょっと怖かったですよ。ガイドとなっているので、練習用の何かなのかなと思ったんですが、実際にこれ 119 番通報をするツールなんですよね。だから、子どもなんかがついつい「練習用かな？」と押しちゃうようなことがないのかな？というのが気になりました。下側に「実際に 119 番に繋がります」といった注意喚起があってもいいのかなと思います（図 3）。

島本 ありがとうございます。こういったご意見が聞けてありがたいです。

千田 私もこのツールを使い始めて、最初はクイズで昇級するとか、ガチャを集めるぞ、っていう目標があるから、ちょっとした中毒性じゃないですけど、夢中になってる期間はあったんですが、それが終わってしまうとポイントを集める理由がなくなってしまっている感じはあります。

島本 継続する理由のひとつになるんですね。自分の周りの人たちからはガチャやクイズを楽しんでるってあまり聞かなかったので、それが聞けてすごく嬉しいです。今、「AED1000 台登録するまで帰れません!」のイベントのたびに 4 ヶ月に 1 回はガチャのキャラクターを追加して少しずつパワーアップしてはいるんですが、ペースを上げた方が良さそうですね。

大阪大谷大学で「ゆるキャラ」とかいらないんですか？イラストがあればガチャに追加できますよ！

小畑 タニーちゃんというゆるキャラみたいなのはいるので、ちょっと広報の方に掛け合ってみます。
※その後、タニーちゃんは実装されました。

島本 ぜひよろしくをお願いします！CERCIT さんはなにやら非公式キャラクターがあるそうで（笑）。

横川 僕をキャラクター化したものがあるんですよ。

島本 そういうのもありかもしれないですね。AED

財団と連携して各地で teamASUKA を広げてくださっている、地域コア団体のガチャを増やしていきたいですね。そういうのがあったら少なくともその関係の方々はちょっと盛り上がりたりするじゃないですか。



図 3 119 番通報ガイド

119 番通報を実施した経験がある人は意外と少ないので、いざという時に落ち着いて通報ができるように、必要な情報をまとめて提示しています。また、住所を聞かれたときに答えやすいように、位置情報を基にした住所の表示もあります。

❖継続して使用してもらうには？

千田 やはりこのガチャとかクイズっていうのは、ちょっと万人受けはしないかなとも思っていて、他にもっと面白いこんなゲームがあったらみんなやると思う、といった意見があったらぜひお聞きしたいです。救命の問題を解いて昇級して、やった！って続ける人はやっぱり普段からかなり意識の高い人かなと思うので・・・。

小畑 クイズじゃなく AED を探したポイント数だけで何か貯まっていったり、昇格していったりするようなものもありかもしれないですね。

島本 今、ホーム画面の左上に coming soon の「みんなで育てるたんぼぼ」があるんですが、ここでそれが実装される予定なんですよ（図4）。構想としては、今は皆さんが個別で貯めているポイントが、一定期間みんなで貯める総ポイント数の目標を作って、達成できたらたんぼぼが咲いて、さらに財団が何か社会への還元をするというような形にできないかと思っています。仕組み自体はできているんですけど、社会への還元をどうするかというあたりの調整中で、まだ動いてないんですね。それができたらまたさらに皆さんのポイントを貯める意欲にも繋がるのかなと思うんですが。

ガチャはキャラクターによっては意外と万人受けする気はするんですけどね。

千田 くまモンとか、申請すれば使えるキャラクターがあるので使わせてもらって、AED を持たせればいい感じかもしれないですね。

島本 確かにそういうのもありですね。今度は日本赤十字社さんが加わってくれたので、近々ハートラちゃんなどがガチャに追加される予定です。
※その後、ハートラちゃんは実装されました。

千田 横川先生はいかがですか？

横川 まだ私も使い慣れていないのですが、他のオープンデータサイトに登録された AED が仙台市内や東北地方にも結構たくさんあるので、まずはそういったところを見つけながら登録をしています。けど、建物の中だと、あるんだろうなと思いつつも登録できないとか、その辺を他の地域で長く活動されている方はどうしているのかご意見を伺いたいというのが一つあります。

あと、より魅力的にするためっていうことで、今個人のポイントランキングや先ほどのガチャなどがありますが、こういうアプリで継続してもらうためには、個人でやってもらうのと、グループを作ってやってもらうっていうのはあるのかなと思います。自由に全国でグループを組めるようにして、そのグループ単位で期間を決めて競わせるとか、そういうのはありかなと思いました。

島本 以前もグループで参加したい、といった意見はありました。

千田 地域コア団体という、teamASUKA を広げるために地域で組織的に活動してもらう仕組みがあるのですが、その団体毎に活動をカウントできないかっていうのもありましたよね。

島本 地域コア団体やグループに、ポイントを紐づけるのに多分大幅な改修が必要なので、少なくとも今すぐはできないですね。でも定期的な地域対抗のイベントはありますよね。それと並行してみんなでポイントを合算できたりすると良いですね。



図4 ホーム画面

team ASUKA を開いたときに表示される画面です。救命活動を支援する、様々な機能が集約されています。文中の「みんなで育てるたんぼぼ」は、左上に追加される予定です。

◆AED マップの登録数を増やす工夫

千田 私の地元では地域の団体が AED 設置情報を

集めて施設にステッカーを貼ってもらう取り組みを
していて。各地域にそういう団体があるんだろうな
あと思ったので、そういうところと連携できるとも
っと AED N@VI の登録数も増えてくると思います。

平野 名古屋市の隣の長久手市では、市が公共施設
に 60 数台と、コンビニに 30 台くらい AED を設置
しています。消防から AED の設置リストをもらっ
て、その情報を団体で 60 数台登録したというの
があります。ただ、AED N@VI 上にすでに地域の方が
登録をされたものもあったので、実際に登録したも
のは 2~30 台でした。一番手っ取り早いのは消防や
市役所に行ってリストをいただくことですかね。

小畑 リストでしたら、例えば行政なんかであれば、
ホームページにマップを掲載しているのはよくある
ので、そういうものからリスト化するというのもで
きますよね。富田林市内で講習会をする時にどれだ
け AED があるかホームページを見ると、小学校や
中学校のリストがあったんです。様々なかたちでデ
ータは出ていると思うので、各地域から集めて一括
で登録するのもありかもしれないですね。

島本 自治体等が出しているオープンデータをまと
めている G 空間情報センターという web サイトが
あって、財団側ではそこに上がっているものは既に
連携していて、ご連絡のあった自治体からのデー
タはさらに別に直接登録させてもらっています。しか
し、すべての自治体を網羅出来ているわけではあり
ません。さらに外部のデータも数年前のデータが残
っていた、最新のものに更新されていないものもあ
るので、全部の自治体を同じようにというのは難し
い気はします。しかし、自治体や組織からリストを
もらう、といったノウハウは、ユーザーの皆さんに
情報共有するといいですね。

❖「使いやすい」「使いたい」アプリを目指して

千田 成田さん、仕様やアプリのデザイン面も含め
てご意見ください。

成田 はい。元々島本先生から相談を受けて、開発
部分から携わりましたので、僕からするとすごく感
慨深いです。どんなアプリを作ってもいろんな課題
に対して全て応えられるわけではないし、デジタル

に詳しい人ばかりじゃなくて、手取り足取り説明が
必要な方も実際にいらっしゃるの、コミュニケー
ションツールとして自動で動いていくというより
も、これを手元に置いて会話していくツールとして
はすごく良いものができたんだろうなと思っていま
す。

あと、このフロントデザインを作ったときに試行錯
誤してこれに至っているんですけど、今一つ思うの
は新しく出た「救命コーチングアプリ Liv for All」
をみんなに知ってほしいし、やってほしいじゃない
ですか。今だと「お知らせ」の上から 2 つ目から探
さないといけないのがもったいない。

島本 「救命処置を学ぶ」にも入ってはいるんです
けど、探さないと出ないんですね。

成田 どうすれば“今はこれを推したい”というの
がわかるかなと考えたときに、どれかを削らないとい
けない。例えば「ご支援のお願い」をちょっと潜ら
せて、ここに「今これを見て」という項目があつた
りしても良いのかなと思います。

島本 確におっしゃる通り、「今これが旬ですよ」
とか「ここが更新されましたよ」というのがトップ
の中で分かるようになっていいかもしれない
ですね。

平野 救命サポーターの人数がどのくらい増えてい
るのかとかも可視化できるといいですね。そもそも
やっぱり救命サポーターの数が増えないと登録台数
も増えていかないと思うんです。

島本 人数もどこかでわかる場所があってもいい
のかもしれないですね。

平野 それと、救命サポーターの中で 1 台も AED を
登録されていない、いわゆる「休眠サポーター」の
方も多いんじゃないかと思います。

その休眠サポーターがもし多いのであれば、やっぱ
り登録する動機やモチベーションが上がらないのか、
そこに問題あると思うので、その辺がわかれば打つ
手があるのかもしれないですね。

島本 確かにその辺の分析をしていってもいいかも
しれないですね。

平舘 「最寄りの AED 検索」をタップすると、119
番通報ができるっていうのはすごく画期的ですよ
(図 5)。マップでどこに AED があるかを見ながら、

なおかつここで 119 番通報ができるというのを、もうちょっとアピールできる、わかりやすいアイコン



図 5 最寄りの AED を探す画面

現在地周辺にある AED を検索し、そこまでの道のりとあわせて一瞬で表示できる機能です。AED の情報は 3 つまで表示され、タップすることでルートを表示する AED を変えることができます。画面向かって左の 119 番通報のマークを押すと、図 4 の 119 番通報ガイドが開き、迅速な通報を支援します。その下の「共有マーク」は、team ASUKA 外の SNS や、メールなどでこの情報を他の人にシェアできる機能です。この画面以外にも、いろいろな所についているので、ぜひ皆さんの友達や家族などへ共有し、救命の取り組みを広げてください。

だといいのかと思ってしまいます。あと、この「共有」は何を目的としているのかを伺いたいです。

島本 ありがとうございます。今ご質問いただいた共有のところは、「この AED がこんなところにありますよ」というのを外部に共有できるんですよ。皆さん一度そのボタンを押してみてもらうとわかると思いますが、LINE 等に最寄りの AED を検索した結果を共有したりできるようになっています。

石見 こういうのは時々プッシュ通知で「共有って知ってますか?」という紹介をしたり、119 番通報

機能を紹介したり、そういうのを定期的に発信するのもありかもしれないですね。ここでわかりにくいことや、もっとみんなに伝えた方がいいことを財団に教えてね、と言っておいて、伝えるとそれがプッシュ通知で流れてくるとか、フィードバックする機会があると良いかもしれないですね。

島本 そういう意味ではメニュー等に直接ご要望をいただくところがあってもいいかもしれないですね。

石見 要望を吸い上げるのは常にやった方がいいのか、それともイベントとしてやる方がいいのかっていうのを考えてみると良いかもしれないですね。

小畑 「最寄りの AED 検索」にある 119 番ボタンがすぐ見づらくないですか?

島本 あの左に 119 番通報ってあるところですね。

小畑 そうですね。どこにあるかわかりづらいので、赤とかもっと目立つ色にすると良いと思います。

島本 確かに、色を切り替えるぐらいだったら簡単にできるかもしれないですね。

千田 たくさんご意見いただきありがとうございます。今回伺った内容は、今後のアプリの機能改善やユーザーを増やすための方策として参考にさせていただきます。

無料

×

たった15分

救命コーチングアプリ Liv for ALL

Livを使えば救命処置のトレーニングを
オンラインアプリで楽しく実践的に学べます

Liv は AED を用いた救命処置を無料で楽しく、たった 15 分で学ぶことができます。
 スマホ等に直接インストールして使うアプリではなく、
 インターネットで簡単に使えるウェブアプリです。
 他人事のように実は多くの人が直面している突然の心停止。
 あなたも Liv でいざというときに備えましょう！

救命コーチングアプリ Liv ってなに？

AED を用いた救命処置を、好きな場所で、好きな時に学べる
 オンライントレーニングアプリです。
 Liv とは、ノルウェー語で
 「生きる・命」を意味しています。

トレーニングに必要なものは？

クッションとインターネットに繋がった
 スマートフォンまたはタブレットだけです。

トレーニングの流れ



段階を踏んだトレーニングで自信をつける
 心停止の見分け方から
 AED の使い方までを順番に学びます。



119 番通報の練習
 どんな時に 119 番通報が必要かを学び、
 実際に通報シミュレーションを行います。



心肺蘇生をマスターする
 Liv からのフィードバックを受けながら胸骨圧迫を
 行い、自信と技術を身につけます。



AED について学ぶ
 AED の特徴と使用方法を実際の音声聞きながら
 学びます。

受講証の発行



受講証を発行することで、救命に対するモチベーションを高めていきましょう。半年毎、1 年毎など繰り返しの受講をお勧めします。救命サポーターアプリ team ASUKA を活用すれば、スマホで受講歴の管理も出来ます。

無料オンライン
 トレーニングを
 はじめる

